

日本バプテスト連盟

性差別問題特別委員会

ニュースレター 第41号 2026. 3. 15



★日本バプテスト連盟のホームページでも読むことができます。

巻頭言：平和をください～届かなかった

岡田富美子

国は国に向かって剣をあげず、もはや戦うことを学ばない。(イザヤ書2章4節c 新共同訳聖書)

2021年12月19日(日)「南西シフト・台湾有事、戦争前夜の危機に抗う」集会は日米が考えている東アジアにおける次なる戦争計画。戦後80年を経て沖縄を再び戦場にする。南西諸島を戦場にする計画でした。大きな地図の上に米兵が立ち、作戦らしきものを説明していました。沖縄中の島が基地建設ラッシュで一見景気が良くなったかのように錯覚しました。が最新鋭の軍事施設が着々とつくられていきました。島民のわずかの人たちがいまだ非暴力抵抗運動を続けています。

小さい島は大きな力によって住民が分断され軍事基地を受け入れさせられてきました。米兵による性暴力、環境汚染等の発生と対応を見るにつけ構造的差別をいやというほど見せつけられますが、同じ構造がここにもあります。

台湾に一番近い与那国島で政府の役人と住民たちとの話し合いが行われました。沖縄島を除く島々の住民11万人を6日間で九州、山口へ避難、輸送する計画です。81年前の、沖縄戦の時の「疎開」の再来です。政府、住民との説明会で持ち物は一人トランク1個まで、と説明がありました。賭突な流れで住民たちの必死な質問が次から次に出てきます。

畜産を営んでいる青年から訴えがありました。「家族同然の家畜たちはどうなるんですか」「祖先の墓は」「仕事は」とうとうお役人は何も答えられず、沈黙を通しました。その青年のまなざしはしっかり応えを待っています。

2月8日、大儀なき解散といわれた衆院選挙の結果が出ました。米軍の戦闘機からの爆音は心なしか、激しくなりました。いま、4万5千人の兵隊による日米合同の離島奪還訓練が行われています。この度の衆院選では沖縄から衆院議へと送っている議員で「基地建設NO」とする議員が一人も残りませんでした。

沖縄戦後、命からがら生き延びた方がたが沖縄各地で新しい基地建設に抗い座り込み「加害者にも被害者にもなりたくない」「自衛隊員も相手国の人も死なせたくない」「土地は平和のためにだけに使いたい」運動を展開し、それらも各地で引き継がれていますが、その思いが国会の場で反映することが厳しくなりました。国と国が信頼し一人ひとりがお互いを喜んで、希望に向かって生きる。そのような社会(地域)であってほしいと願います。

与那国島で訴えた一人の方の生存をかけた眼差し、故郷を奪われる悲しみのその問いに答えてほしい。

(おかだ ふみこ／性差別問題特別委員会委員 那覇新都心キリスト教会)

公開学習会感想①

森 崇

2026年2月3日、八王子めじろ台バプテスト教会で開催された公開学習会「ようこそ教会へ わたしたちは大丈夫？」に参加した。性差別問題特別委員会の委員による発題を受け、牧師と信徒それぞれの立場から、教会で起こりうる性差別について語り合う時間となった。

発題では、牧師を志して学びを続けてきた女性献身者が、なかなか就任への道が開かれなかった経験や、女性であるがゆえに受けてきた差別が率直に語られた。また信徒の立場からは、性別によって役割を押し付けてこなかったか、あるいは牧師の伴侶に過度な期待を強いてこなかったかという反省の言葉が聞かれ、教会が抱える課題の深さを改めて思わされた。

公開学習会は誰でも参加できるように、受付で名前を書く必要もなく、集会の中でも自己紹介は行われなかった。匿名性が守られることで、個々の痛みや苦しみを安心して分かち合えるという利点がある一方、同じ目的を持って集った人々の名前すら知ることができないことに、少し寂しさも覚えた。

教会の中で性差別の問題に特化して考えることは、今の時代において非常に重要である。現代は男女でとらえきれないほどの多様な性自認が認識されるようになってきた。しかし教会は長い歴史の中で、受付名簿を男女で分けたり、奉仕を性別で区別したりと、性差を前提とした教会形成を行ってきた。多様性を尊重し、一人ひとりを受け入れる社会へと変わりつつある今、教会もまた性別による枠組みから解放され、より自由に、より喜びをもって互いに仕え合う姿へと開かれていく必要があるのではないかと考えさせられた。

「人が独りでいるのは良くない。彼に合う助ける者を造ろう」（創世記2章18節）という言葉、私たちはどのように受け止めるのだろうか。男女の結婚を前提とした言葉として読むのか、それとも人が互いに支え合い共に生きるための“共生”を示す言葉として読むのか。聖書の言葉を固定化した理解に閉じ込めるのではなく、さまざまな人との出会いの中で新たに開かれていく読み方を大切にしたいと願っている。

その意味で、男女という枠にとらわれない結婚式文や式のあり方に取り組んでいる教会があれば、ぜひ教えていただきたい。共に考え続けていきたいと思う。「花婿が花嫁を喜びとするようにあなたの神はあなたを喜びとされる」（イザヤ書62章5節）。教会は神の花嫁であり、私自身も性差を超えてこの交わりに招かれていることを喜びとしたい。

（もり たかし／常盤台バプテスト教会）

公開学習会感想②

匿名 T.A

この度、友人に誘われて、初めて公開学習会に参加いたしました。私自身初めての場所や人が得意でないため、出かける前は緊張や不安を覚えておりましたが、現地では委員の方々や他の参加者の皆様が温かく迎えてくださり、不思議と安心して参加することができました。帰る道々、その理由について考えておりましたところ、今回のテーマである「ようこそ教会へ わたしたちは大丈夫？」にヒントがあると思ひ当たりました。学びの中で、すべての人が安心して過ごせる教会を形作るために、私たちはどのような備え(心構え)をしたらよいのでしょうか？という問いかけがありました。具体的には、受付での対応、個人情報の取り扱い、交わりでの言葉かけ、奉仕での役割分担、設備のバリアフリー化など、初めて教会を訪れた方の視点に立ったつもりで自分の教会を見つめ直す作業を行いました。自分の教会での経験を振り返ってみますと、喜びや感謝が溢れる中でも、時折戸惑いや不安を感じるがあったと気付きました。同時に、この学習会の居心地が良い理由は、それらのポイントに精一杯配慮しようと努力されているからなのだと気付かされました。

さらに、この振り返りの作業を行って、もっと多くの方々にこの体験をして頂きたいとの気持ちを抱きました。自分以外の方の気持ちを想像することはとても難しく、指摘を受けて初めて気付かされるのがほとんどだと自戒を込めて思います。ですから、皆で振り返ることで、多様な意見が出て、多くの気付きが与えられるのではないかと考えます。その場で、こんな風に変えたらなどの具体的なアイデアが出れば素晴らしいと思いますし、作業を通して、教会がより安心して過ごせる場所に変えられるのであれば嬉しい限りです。もちろん、発題者も強調されていたように、この作業は誰かを責めることが目的ではなく、それぞれの言動を振り返ることが目的です。そのため個人攻撃につながるものがないよう最大限の配慮をする必要があるでしょう。何より自分自身、過去の過ちに気付いたら、素直に受け止め速やかな悔い改めを行う者でありたいと願います。

最後に、この学習会を企画準備して下さった委員会の方々、会場を引き受けて下さった八王子めじろ台教会の皆様に、心より感謝申し上げます。

『謝ること』

今井朋恵

以前、「先に謝ってはいけない」と聞き驚いたことがある。それは、車で接触事故を起こした際の話。先に謝ると、修理の費用を多く出すことになりかねないからだとか。そう言えば、保険屋に任せてあると言って、ケガで入院中の人のお見舞いにも来ないという例もあった。謝るとお金がかかる？申し訳ないという思いは、取り敢えず横に置いて...だけど、何だか変な気がする。

先日、スカイツリーのエレベーターが緊急停止し、乗客 20 名が閉じ込められた。カメラの前で、スカイツリーの担当者は「お詫びいたします」と言っていた。その後、緊急停止の原因が分かり、今度はエレベーターの管理会社が会見を開き謝罪していた。5 時間半くらい閉じ込められたが、ケガや搬送者はなかった。前にも、閉じ込みがあり「原因が不明」のままだった事は気になった。

以下、「お詫びと謝罪」について。意味に大差はないが、微妙な違いを思う。

【岩波国語辞典(第八版)2019 年】

〔詫びる〕…心苦しく思って、悪かったとあやまる。

「ご無沙汰を詫びる」「不始末を詫びる」

〔謝罪〕罪やあやまちをわびること

【広辞苑 第七版 2018 年】

〔詫び〕…思いわずらうこと。気落ちすること。落胆。

思いわずらう意から、罪を謝すること。あやまること。

〔謝罪〕罪やあやまちをわびること。「被害者に謝罪する」「謝罪広告」

《詫びと謝罪の違いとは？ | クレーム対応術 6 【カスハラ対策】 関根健夫》

そもそも、謝るという行為は、詫びの意味と謝罪の意味がある。同じ「申し訳ございません」「すみません」などの発言でも、詫びと謝罪は意味が違うのだ。

詫びることとは、相手方の不満や不快について言及することである。一方、謝罪の場合は、明らかにこちらに非があったと認めることである。

「人々を恐れてはならない。覆われているもので現されないものはなく、隠されているもので知られずに済むものはないからである。」 マタイ 10 : 26

合いの手のように「ありがとうございます」を使うマニュアルに有り難さはない。「ごめんなさい/申し訳ありません/お詫びします/謝罪します」のうち、どの言葉を使ったとしても、形式的・その場のしぎ・周囲に促され・言い訳が入るは、どうだろう？何のために謝るのか、何を謝っているのか、どこが問題だったのか、この先どうありたいのかを考えていきたい。否認も含め、真の改心に至らないままでは、次に進むことが出来ず、イスラエルの民のように同じ所を何十年も回るようになってしまう。人を恐れず、神を恐れ、前に進もう。

(いまい ともえ/性差別問題特別委員会委員 今治バプテスト教会)

編集後記: 初めて教会の入り口の扉を開いた時の、受付の方が向けてくれた微笑みが今でも忘れられない。あれから二十年以上の月日が経ち今もこうして教会に繋がることができているのは、あの微笑みに「私という存在」を大切にしてくれる神の愛をみたからだと真剣に思っている。「私たちの教会が、誰にとっても安全で心安らげる場であることを望みます。教会が、蔑視・排除・支配・硬直から解かれ、尊重・受容・連帯・柔軟性を保持することが出来ますように。…あなたにとって 私にとって、大切な教会へようこそ！教会の入り口が、互いの存在を認め合い、いのちの豊かさを知る喜びの門となりますように・・・」(当委員会冊子「ようこそ教会へ わたしたちは大丈夫？」2020 年より)。

“ようこそ教会へ”。誰一人取り残すことのない、神の招きが響き渡る教会を目指していこう。

(よしだ なおし/性差別問題特別委員会委員 室蘭バプテスト・キリスト教会)